

京大病院 リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。  
医療安全管理室では、そのときの社会のタイムリーな話題を紹介しながら、リスクや安全に関する用語をご紹介します。  
話題の **ChatGPT**（人工知能ツール）に医療安全の課題について教えてもらいました。では、ChatGPT は、私たちの困りごとに対して、助言をしてくれるでしょうか？ 役立つでしょうか？

### 画像診断報告書への対応エラー：人工知能により解決？

Q. 報告書に、がんが疑われます、と書いてあったのに、医師が見落としたり、報告書を読まなかったりしたエラーはなぜ起こるのですか？

A. 以下はいくつかの可能な原因です。

**忙しさ：** 医師が忙しく、報告書を十分に読む時間がないことがあります。

**経験不足：** 経験が浅い医師は、複雑な報告書を正確に読むことが困難かもしれません。

**情報過多：** 報告書には多くの情報が含まれている場合があり、これを全て読み解くのが困難な場合があります。

**認識の誤り：** 医師が報告書を読んでいる途中で、誤った結論を導いてしまうことがあります。

これらの問題を回避するためには、医療関係者が報告書を十分に読んで理解することが重要です。また、**報告書に記載されている重要な情報を強調**することも有効です。さらに、報告書の正確な内容を確認するためのチェックリストやプロトコルを採用することも有効です。

（筆者：チェックリストやプロトコルとは何？）

Q. 医療関係者が報告書を十分に読んで理解することが難しい背景には何がありますか？

A. 医療関係者が報告書を十分に読んで理解することが難しい背景には以下のような要因があります。

**時間制約：** 医療関係者は多忙なスケジュールを抱えていることがあり、報告書を十分に読む時間がないことがあります。

**情報量の増加：** 近年、医学的な情報量が急増しており、これを全て読み解くことが困難な場合があります。

**複雑な内容：** 報告書に含まれる内容が複雑である場合、正確に理解することが困難な場合があります。

**焦り：** 緊急の状況下である場合、医療関係者は患者の状況を早期に把握するために、急いで報告書を読むことがありますが、これにより、報告書を正確に読むことが困難になる場合があります。

Q. 患者さんに報告書を渡すというアイデアは、有効でしょうか？

A. **患者さんに報告書を渡すことは、一般的には有効なアイデア**です。患者さんが自分の診断や治療に関連する情報を理解することで、治療過程において患者さんが把握しやすくなります。また、患者さんが自分自身で報告書を読んで理解することで、**医療関係者が見落とし**たり、**報告書に不明瞭な点がある場合に、患者さんが問題を指摘**することもあります。

ただし、患者さんに報告書を渡す場合には、報告書が患者さんにとって理解しやすい形式になっていることが大切です。また、報告書に含まれる医学的な用語や技術的な詳細な情報については、患者さんにわかりやすいよう説明することも重要です。

Q. 患者さんに報告書を渡すことによる問題点も教えてください。

A. 患者さんに報告書を渡すことには以下のような問題点もあります。  
**医学的な用語や技術的な情報に対する誤解：** 報告書に含まれる医学的な用語や技術的な情報が患者さんにとって理解しにくい場合、誤解を招いてしまうことがあります。

**恐怖や不安の拡大：** 報告書に含まれる情報が患者さんにとって恐ろしい、不安を引き起こす場合があります。

**医療関係者との意見の相違：** 患者さんが報告書を読んで得た情報と医療関係者が提示する情報が異なる場合、信頼性や信用に対する疑いが生じることがあります。

**治療に対する不信感：** 患者さんが報告書を読んで得た情報から治療に対する不信感が生じることがあります。

これらの問題を避けるためには、**報告書を渡す前に、患者さんが理解しやすい形式に整理**することや、**報告書に含まれる医学的な用語や技術的な情報について患者さんに説明**することが大切です。また、患者さんが報告書を読んだ後に**疑問があった場合には、医療関係者が説明**することも重要です。

（筆者：なるほど・・・）

\* 今回は、「**ChatGPT（人工知能）**」について、お伝えしました \*